

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 文章を読んで、その内容を正しく理解する力が弱い。 「～は」「～を」「～へ」や促音・拗音・撥音の記述が定着していない。 - 文章を書く力が弱い。 - 大切なことを落とさずに聞く力が弱い。	- 文章を読むうえで、大切な言葉を丸で囲んだり、ラインを引いたりして、内容を正しく理解できるようにする。【発見・決定】 - 年間を通して、プリント・作文・日記に取り組み、語句の使い方の定着を図る。【表現】 - 書く活動に入る前に、相手や目的を明確にし、意欲を高める。【決定】 - 聞き手が質問や感想を伝える時間を設け、話し手が何を伝えたいのかを考えながら聞けるようにする。【対話】		
算数	- 計算については、個人差が大きい。○やブロックで考える、指を使うという方法が必要な児童がいる。 - 文章問題から自分で内容を把握して立式することが難しい。 - 考え方を周りの人に分かるように説明することについては、これから練習が必要である。	- 授業の始めに、5や10の構成、計算カードなど基本となる知識事項の定着を図る時間を作る。【決定】 - 問題の文章に線を引かせ、考えのキーワードとなる言葉をつかめるようにする。問題場面をブロックや図で表す機会を多く作り、問題を視覚化して理解できるようにする。【発見】 - 図の書き方を指導し、今後児童が自分で図を使っていくことができるようにする。児童の図や考えを全体で共有する時間を作り、考えを深める。【表現・対話】		
生活	意欲はあるが、発見カードに気付いたことをどのように言葉で表現したらよいか戸惑う児童が多い。	- 観察するポイントを説明し、黒板等にもポイントを提示する。【発見】 - 黒板に教師が手本を提示して、具体的なイメージがもてるように支援する。【表現】		
音楽	- リズムを打つ、リズムにのって歌を歌うという活動に楽しく参加することが難しい児童がいる。 - 鍵盤ハーモニカのタンギングや指遣いが、まだ正確でなく、練習が必要である。	- 全体で楽しく体を動かしたり、言葉と拍を結び付けて遊んだりして抵抗感を減らす。【表現】 - 鍵盤ハーモニカの音を出す前に、階名や指番号で繰り返し歌う。【表現】		
図画工作	- 題材の得意、不得意によって取り組む姿勢が違う児童がみられる。 - 作りたい作品のイメージがもてない児童がいる。	- のり、はさみの使い方を基本から丁寧に説明したり、作品の見本や作業の実演を多く取り入れたりして児童が題材のイメージをもてるようにする。【発見・表現】 - ペア、グループでの話し合い活動を計画的に取り入れる。【対話・表現】		
体育	- 運動経験が少ないため、どのように身体の部位を動かせばいいかが、分からない児童が多い。 - 運動に対して抵抗感をもっている児童がいる。	- 身体の様々な部分や道具を使った運動遊びを多く取り入れる。【発見】 - ペア、グループでの話し合いの時間を取り、友達と共に楽しく身体を動かす活動を通して、運動に親しませる。【対話・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 単元の学習への見通しがもてずに、単元の目標に向かって自己調整することができない児童がいる。 - 文章を読んだり、友達の話を聞いたりして自分の考えをもつ活動の際に、自分の考えが浮かばない児童がいる。 - 自分の考えはもてても、その根拠や理由を表現することができない児童がいる。	- 教科書「学習の手引き」等を活用したり、具体的な目標を示したりすることで、児童自身も目指す姿がもてるようにする。【発見】 - 選択肢を示すことで、自分の考えをもちやすくするきっかけを作る。【決定】 - 個別に対話をして考えを言語化させたり、他者の考えを聞いて参考にさせたりして、表現を促す。【表現】		
算数	- 学習内容を理解するまでの個人差が大きい。 - 自力解決の際に、自分の考えをもてず、学習への参加に抵抗を感じている児童がいる。 - 自分の考えをもてても、うまく表現できない児童がいる。	- 適応問題等で個別に対応する。問題の難易度を調整し、前向きに学習に取り組めるようにする。【表現】 - 導入で本時と関連する既習事項の振り返りをする時間を確保し、本時の学習で活用できる学習内容を整理する。【発見】 - 言葉や式、図など、様々な表現方法があることに気付かせたり、他者の考えを聞いて表現の方法を広げさせたりする。【表現】		
生活	- 単元の学習内容を支える生活経験に個人差がある。 - 体験したことに対して、自分の考え（主に気付き）をもつことができない児童がいる。 - 自分の考えをもつことができて、うまく表現できない児童がいる。	- 学習内容に即して体験活動を充実させることで、生活経験の個人差を埋める。【発見】 - 体験の前に視点を明確にもたせることで、自分の考えをもつことを促す。【発見】 - 個別に対話をして考えを言語化させたり、他者の考えを聞いて参考にさせたりして、表現を促す。【表現】		
音楽	- 歌唱で、音程やリズムをうまくとれない児童がいる。 - けんぱんハーモニカでリズムや指づかいが難しく、演奏に抵抗がある児童がいる。	- 導入時などで、手拍子で拍を取ったり、正しく音程を取れるように歌ったりして、本時につながるようにする。【表現】 - 階名や指番号で繰り返し歌う。細かく分け、短い小節でできた経験を重ねられるよう指導する。【表現】		
図画工作	- 意欲的に取り組んでいるが、作品づくりの際にイメージやアイデアが浮かびにくい児童もいる。 - 道具を正しく使う技能を高めていく必要がある。	- 児童が自由な発想や表現の楽しさを味わえるような題材を提示したり、導入時には、題材のイメージを共有したりする時間を取るようする。【対話・発見】 - 導入時に、道具の扱い方について書画カメラや動画などを用いて提示し、正しい使い方を理解する時間を取る。【発見】 - 道具や用具を試す時間を設け、正しく使用できることができるようにする。【決定】		
体育	- 意欲的に授業に参加しようとする児童が多いが、勝ち負けだけにこだわったり、友達と関わって運動したりすることが難しい児童もいる。 - 運動経験が少ないため、身体の部位を意識して動かすことができない児童が多い。	- 道具を使った運動遊びやあらゆる体の部分を使った運動遊びなど、様々な感覚や動きを体験させる。【表現】 - 本時の学習で使う部位の準備運動を行い、声掛けをしていく。【発見】 - 自分の動きをタブレットで撮影し、よさや課題を友達と伝え合う。【対話・発見】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 話の中心を意識して話を組み立てて話をする ことや聞き手の反応を見ながら話すことに課題がある。 - 言葉のもつ意味への理解や読み書きに課題のある児童がいる。	- テーマに沿った話の内容を組み立てさせる。また、相手の方を見て話し、問いかけなどの工夫を取り入れさせることで、聞き手の注意を喚起させながら話をさせる。【対話】 - 漢字の書き取り練習だけではなく音読や辞典を引く機会を増やす。【表現】		
算数	- 見通しをもって解決するために、基礎的な計算力が十分でない児童がいる。 - 友達の考えから学ぶ視点を育てる必要がある。 - 図や式や言葉で表す方法が思い浮かばなかったり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりすることに苦手意識をもつ児童も見受けられる。	- 授業の中で基礎的な計算練習の時間を確保し、計算力の定着を図っていく。【発見・決定】 - 全体交流の場で似た考えを分類したり、よりよい考え方を価値付けたりしていく。【発見・対話】 - ペアやグループでの活動を増やす。習熟度別クラスに慣れて意見が言いやすいよう、必要によっては2単元に渡ってクラス編成をする。【対話・表現】		
理科	- 自然の事物・現象から疑問をもつことはできるが、学習問題として自分でまとめることは十分でない児童が多い。 - 生き物に対する苦手意識をもつ児童がいる。 - 事象について、それに合う科学的・理解的な用語や、表現を使って説明することが十分でない児童が多い。	- 植物の栽培や生き物の飼育などを実際に経験して、児童の中で共通体験を持てるようにする。【発見】 - 疑問や差異点、共通点に着目できる事象を提示し、差異点・共通点を明確にできるように整理し、学習問題を見出しやすい工夫をする。【発見・決定】 - 単元を通して、事象を表す科学的・理科学的な用語を強調して指導し、それを使って表現する機会を増やす。【対話・表現】		
社会	- 体験や見学したことを知識としてまとめたり、特徴として捉えたりすることが難しい児童がいる。 - 生活経験の不足から理解に苦労したり、生活経験が学習とうまく結びつかなかったりする児童がいる。 - 方角、地図記号等を適切に使って表現したり、説明したりすることが難しい児童が多い。	- 体験、見学したことを全体で共有し、共通点を共有する機会を作り、特徴として捉えたり、知識としてまとめたりできるようにする。【決定・対話】 - 日常生活の中で経験を広げられるよう、保護者と連携を図る。【発見】 - 方角・地図記号等、知識面の学習を繰り返し行い、活用できるようにする。【表現】		
音楽	- 音楽表現の技能について、歌詞の内容を理解して曲のイメージを表現することができない。 - リコーダーの運指、適切な息づかいが苦手な児童が多い。	- グループ唱で互いに声を聴き比べて、表現や声の違いに気付けるようにさせる。【発見・対話】 - リコーダーは、教え合いの時間や個別指導の時間を増やす。【表現・対話】		
図画工作	- 意欲関心をもって取り組んでいるが、扱う材料や道具に偏りがある場合がある。 - 得意、不得意により、技術的な個人差がある。	- 児童が関心興味をもてる題材や自由な発想や表現の楽しさを味わえるような題材を提示していく。【発見】 - 児童同士で作品を相互評価する場を設ける。【対話】 - 具体的な作品、視覚的教材を例示する。【決定・表現】		
体育	- 器械運動や水泳に苦手意識のある児童がいる。 - 主体的に友達と話し合いながら技のポイントを理解し、できるようになる活動に慣れていない。	- 児童個人だけでなく、友達と話し合い、協力してめあてに取り組む。【発見・対話】 - 運動が得意な児童も苦手な児童も運動の楽しさを経験したり、技能を習得する達成感を味わったりすることができるよう指導していく。【決定・表現】 - ICT 機器も効果的に活用する。【発見】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・学習のめあてが明確に捉えられず、主体性をもって学習に臨めない児童がいる。 ・要点をおさえて自分の考えを明確にしながら、簡潔に話したり書いたりすることが難しい児童がいる。 ・文章を書く際に、既習の漢字を使うことができない児童がいる。	・教材の魅力や児童の考えのずれなどを明確にして、解決したくなる課題を見出させる工夫をする。【発見】 ・自分の考えを表す際に、「はじめ」「中」「終わり」の構成を意識させる。【決定】 ・事実と感想と意見を区別して書くなど、文章構成を修正し、要点を絞れるようにする。【決定】 ・メモを使ってスピーチし、質問も交えたスピーチをする時間を増やす。【対話】 ・新出漢字を学習した際に、その文字を使った言葉集めや文作りなどを意図的に行う。【決定】		
算数	・課題の解決の見通しをもてずに、自分の考えを構成できない児童がいる。 ・問題を解決する過程を説明することが難しい。 ・図や式や言葉で表す方法が思い浮かばなかったり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりすることに苦手意識をもつ児童も見受けられる。	・授業の導入で既習を想起させたり、課題に対する解決策の意見交流などをしたりして、解決方法の見通しを持つ時間をとる。【決定】 ・ペアやグループで自分の考えを伝える活動を増やす。習熟度別クラスに慣れて意見が言いやすいよう、必要によっては2単元に渡ってクラス編成をする。【対話】		
理科	・予想を設定する際に、根拠となる既習の内容や生活経験を想起したり、関係づけたりすることが不慣れである。 ・観察や実験の目的の捉え方が不十分で、集中を持続させたり、新たに追究したりすることが難しい。 ・観察や実験の結果（事実）と考察（解釈）を区別して、自分の考えを記述することが難しい。	・各自がノートに予想を記述する前に、根拠として使えそうな既習の内容や生活経験を学級全体で話し合う場を設ける。【対話】 ・観察、実験前に「結果の見通し」を確認する場を設ける。【決定】 ・考察のモデルとなる記述を紹介し、書き方のコツを捉える。【発見】		
社会	・問題に対して、どの資料のどの部分を読んだら解決できるのかを、判断できない児童がいる。 ・グラフや文章などの資料の読み取りが正確にできない児童がいる。 ・資料から個々の情報を捉えることはできるがそこから「何がいえなのか」を考察したり、複数の資料を関連させて読み取ったりすることが苦手である。	・1時間の学習問題に対して、自分で資料を読み取る時間を取り、その後に全体で共有して、正確に情報を理解させる。【対話】 ・導入時に、その日の授業に関係する資料提示をする機会を作り、読み取る機会を多く作る。【発見】 ・考察力を育てるために、資料から読み取ったことを共有し、考察できることをまとめる場面を意識して取り入れる。【表現】		
音楽	・歌う意欲はあるが、響きのある声で歌うことや腹式呼吸が十分に出来ていない。 ・リコーダーの運指、適切な息づかいやタンギングが苦手な児童が多い。	・常時活動で、発声について常に指導し定着するようにする。歌唱の場面でも、響きのある声や体の使い方について指導する。【発見】 ・リコーダーは、教え合いの時間や個別指導の時間を増やす。タンギングは、常に指導していく。【対話】		
図画工作	・意欲関心をもって取り組んでいるが、扱う材料や道具に偏りがある場合がある。 ・水彩絵の具やかなづちをはじめとした材料や用具を適切に扱う力を<u>更に伸ばしたい</u>。	・児童が関心・興味をもてる題材や発想や表現の楽しさを味わえるような題材を提示していく。導入時には ICT 教材も有効活用する。【決定】 ・材料や用具に児童が触れる時間を確保し、材料や用具を十分に扱えるようにする。【発見】		
体育	・得意な運動は意欲的に取り組み、技能を習得しようとしているが、取り組む運動に偏りがあり、様々な運動の経験が不足している児童も多い。 ・運動に親しみ、どの運動領域にも興味をもって取り組める児童が少ない。	・児童個人だけでなく、お互いの技を見合いながら友達の考えを聞き、運動の楽しさを経験したり、技能を習得する達成感を味わったりすることができるよう指導していく。【発見・対話】 ・どの運動領域にも興味をもって楽しく取り組める活動を多く設定する。【発見】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 文章の内容や構造を正確に捉えられず、筆者の主張を読み取ったり、それらをまとめたりすることが難しい。また、読んで理解したことと自身の経験等とを比較したり関連付けたりして考えたことを、適切に表現することに課題が見られる児童が多い。 - 具体例を基に「初め・中・終わり」の簡単な構成で書くことはできるが、中心となる内容がやや主張が明確でなく、語彙や表現力が乏しい児童が多い。筋道立てて文章を書くことに関しては、個人差が大きい。 - 相手意識が弱く、一方的に話す児童が多い。	- 内容の中心となる語や文を見つけられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に着目させる。【発見】 - 視写ワークに取り組むなど、日常的に文章を書く機会を設けるようにする。また、定期的にまとまった量の文章を書く習慣をつける。【表現】 - 考えを共有する際は、その目的を明確にし、互いの思考が深まるようにする。【対話】		
算数	- 数量の関係を理解して、正しく立式することが難しい児童がいる。 - 問題の解き方を相手に分かりやすく説明したり、自分の考えを論理的に話したりする力が不十分である。	- 文章から読み取れることを図や表などに表す方法を知り、自分に合った方法で数量の関係を整理して考えさせる。【表現】 - 友達と学び合うよさを感じさせるとともに、相手を意識したり、図や表などを用いて説明したりできるように指導する。【対話】		
理科	- 問題を見出し、それを言語化することに課題がある児童がいる。 - 観察・実験結果を基に、「何がいえるのか」を考察することが不十分である。	- 事象からの気付きや疑問を整理し、児童が言語化しやすい黒板になるよう意識する。【発見】 「予想と比べてどうだったか」、「実験結果から分かったこと」「問題の答えが結論」と考察の視点を明らかにして児童が書けるようにする。【表現】		
社会	- 教科書に出てくる専門的な用語について、表面的な理解にとどまり、内容の理解まで到達していない児童がいる。 - 資料から読み取ったことと社会的な事象を結び付かせての理解が難しい。 - グラフなどの数値の読み取りや文章も含めた複合的な資料の読み取りについて不十分さがある。	- 写真や動画などの視覚資料を効果的に用いて、児童が興味関心をもって、知識の習熟を図れるようにする。【表現】 - 総合的な学習と関連させたり、社会科見学を効果的に活用したりして、社会的な事象を、より身近に感じながら知識を深められるようにする。【発見】 - グラフや図、表、地図などの資料の読み取りについて、読み取る視点を具体的に示すとともに、算数科の授業とも関連付けて指導していく。【表現】		
音楽	- 歌唱では、曲想にあった表現を工夫することができない。 - 器楽のリコーダーでは運指は定着しているがタンギングが不十分な児童がいる。	- 表現の工夫を考える場を設定し、どう表現したいか考えたり試したりする場面を増やす。【表現】 - タンギングと運指が連動するように、練習方法を工夫する。また、楽曲ごとに個別指導の時間を増やす。【発見】		
図画工作	積極的に取り組んでいるが、経験や技能などを総合的に活かすことや、方法を組み合わせるなど活動を工夫してつくり出す力が、やや弱い。	各題材において材料・用具の活用方法を探索するとともに、造形遊びや、既習の材料・用具との組み合わせに挑戦する時間を多く設けて、表現の幅を広げられるようにする。【表現】		
家庭	児童の生活体験の差があり、調理領域、被服領域の技能習得で個人差が大きい。	一定の手順や段階を追って身に付く技能の習得をするために、グループ活動を取り入れ友達と関わりながら学ばよさを感じさせるとともに、相手に説明したり教えたりすることでお互いの深い学びにつなげる。【対話】		
体育	- 運動技能の個人差が大きい。 - 勝敗を受け入れたり、誰とでも仲良く運動したりすることができないことがある。	- 達成感が得られるように様々な場の工夫をしたり、友達と協力したりできるようにする。また、様々な運動の特性に合わせた楽しさを味わわせる。【発見】 - 小集団で活動させ、仲間の活動を褒めたりアドバイスし合ったりする活動を取り入れ、仲間と一緒に運動すると楽しさが増すことを体験できるようにする。【対話】		
外国語	楽しんで活動に取り組める児童が多いが、英語を話すことに抵抗を示す児童も少なからずいる。	- グループ活動を取り入れることで、友達と一緒に楽しんで英語を話すことができるようにする。【対話】 - 耳で聞いたものを目で見ることで英語の理解を深められるような教材を工夫したり、ICTを活用したりする。【発見】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 豊かな語彙を用いて、話や文章の中で自由に使いこなすことのできる児童が少ない。 - 読書が好きな児童は多いが、意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きい。 - 記述式の問題を苦手とする児童が多い。	- 語彙力を増やすため、授業の中で意味調べを取り入れ、新しい言葉に触れる機会を増やす。【発見・決定】 「図書」の時間をなるべく確保したり、ブックトークなどを定期的に行ったりして、魅力的な本との出会いを演出する。【対話】 - 各教科において、「書く活動」を意識的に取り入れたり、作文や日記を継続的に書かせたりして、文章を書く機会を増やす。【表現】		
算数	- 計算の仕方は理解しているが、ケアレスミスが多く、正確さに欠ける。 - 文章題など数量の関係を理解して、正しく立式することが難しい児童がいる。 - 問題の解き方を相手に分かりやすく説明したり、自分の考えを論理的に話したりする力が不十分である - 問題の解き方などを相手に分かりやすく説明したり、自分の考えを論理的に話したりする力が不十分である。	- 答えの見当を付けてから計算するよさに気付かせ、計算ミスを防ぐための方法を考えさせる。 - 文章から読み取れることを図や表などに表す方法を知り、自分に合った方法で数量の関係を整理して考えさせる。【表現】 - 前学年までの復習を適宜行い、定着を図り、新規の学習の理解度を高める。【発見・決定】 - 友達と学び合うよさを感じさせるとともに、相手を意識したり、図や表などを用いて説明したりできるように指導する。【対話】		
社会	- 歴史に出てくる用語が難しく、理解するには知識が十分に身に付いていない児童が多い。 - 資料から読み取ったことと歴史的な事象を結び付かせての理解が難しい。 - グラフなどの数値の読み取りや文章も含めた複合的な資料の読み取りについて不十分さがある。	- 歴史や政治の知識の定着のために、資料集、写真、ICTなどを活用し、興味・関心を引き出す。【発見】 - 総合的な学習と関連させたり、地域の歴史的史跡を活用したりして、知識を深められるようにする。【発見・対話】 - グラフや図、表、地図などの資料の読み取り方の指導を継続する。また、算数科の授業とも関連付けて知識の習熟を図る。【表現】		
音楽	- 歌唱では、響く声で歌おうとする意欲はあるが、声量が十分ではない。 - 器楽のリコーダーでは運指は定着しているがタンギングが不十分な児童がいる。また、技能の個人差が開きつつある。	- 発声について意識できるように、歌う時の口の形や開け方を確認しながら歌うとともに、息の使い方や支え方を具体的に指導する。教材も、声を出しやすい曲を選ぶ。【発見】 - タンギングと運指が連動するように易しい曲で練習したり、ゆっくりとしたテンポの練習を重ねたりしていく。また、楽曲ごとに個別指導を取り入れて丁寧に指導する。【発見】		
図画工作	- よりよい表現を目指しテーマに対する思考を深め、材料を使いこなす力を一層伸ばす。 - どのように主題を表すかについて考える力を一層伸ばす。	- 様々な視点から物事を観察したり、友達と対話をしたりすることで、楽しみながら発想する時間を授業に取り入れる。【対話】 - 導入時に制作の主題についてイメージを膨らませる時間を確保するとともに、ワークシート等で表現方法や活動の計画を立てることができるようにする。【決定】		
家庭	児童の生活体験の差があり、調理領域、被服領域の技能習得で個人差が大きい。	一定の手順や段階を追って身に付く技能の習得をするために、グループ活動を取り入れ友達と関わりながら学ぶよさを感じさせるとともに、相手に説明したり教えたりすることでお互いの深い学びにつなげる。【対話】		
体育	- 運動の技能の差が大きくある。 - 自分たちの実態に合わせた活動やルールの工夫をすることが難しい。	- 個人での課題を捉えて、どのような練習がよいか選択できるような手立てをする。【発見・対話】 - 学習カードを活用し、活動のコツやルールの工夫の仕方を紹介し、話し合いながら取り組ませる。【対話】		
外国語	定型文としてセリフのように発話することはできるが、スラスラと会話の流れを意識して英語を使うことはできていない。	Main Sentence の英語をセリフのように覚えるだけでなく、会話のキャッチボールができるように相づちや response のフレーズを練習し、会話の中で使えるようにする。【対話】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない

で、2学期末、年度末に評価する。